

# がん予防のススメ Vol.63



徳島大学病院

急性白血病は、  
造血幹細胞から血

液細胞(白血球、赤血球、血小板)へと成熟する途中の細胞ががん化したものです。リンパ球になる予定の細胞ががん化した急性リンパ性白血病と、白血球、赤血球、血小板になる予定の細胞ががん化した急性骨髄性白血病があります。原因は不明ですが、放射線や抗がん剤などの化学物質が原因と考えられる例もあります。白血球細胞が増殖すると、正常な白血球、赤血球、血小板が減少し、感染症、出血、臓器障害などで生命に関わります。治療は、化学療法、抗体医薬や造血幹細胞移植などで、長期生存される方も増えていきます。初期症状としてよくみられるのは、発熱、出血傾向で、かぜや発熱が長引く、歯肉出血や青あざが自然にできるなどの症状があれば、早めに専門医療機関を受診してください。



徳島大学病院 がん相談支援センター  
がんの相談はこちらへ 相談窓口 Tel.088-633-9438

がん診療連携センター  
<http://www.tokudai-ganrenkei.jp>



徳島がん対策センター  
<http://www.toku-gantaisaku.jp>